



成田 あれ・これ

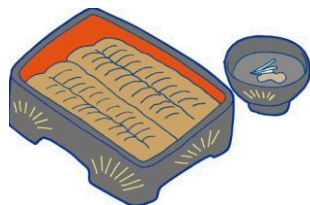


令和7年8月号 第362号

発行：(一社)成田市観光協会
成田市花崎町839
0476-24-3198

成田うなぎ祭り 7/18(金)～8/28(木)

江戸時代から続く「成田のうなぎ」を多くの皆様に知って頂く為に、今年も「成田うなぎ祭り」を開催します。



今年で21回目を迎え、118店の参加店が、アイデア溢れるうなぎ料理や成田の特産物などの多彩な品々を沢山ご用意してお客様をお待ちしております。

イベント期間中は、各参加店でのお食事やお買い物1,000円につき1個スタンプを押印します。2店舗以上を巡りスタンプを3個集めると、豪華賞品が当たる抽選会にご応募できます。

古い由来のある成田のうなぎ。江戸時代には「成田詣」が盛んになり成田は繁栄しました。門前町の旅館では、江戸でうなぎの人気の高まるにつれて夏場のうなぎ料理を売り物として、お客様をおもてなしました。この名残で、成田山周辺を中心に成田市内には、うなぎ料理を出すお店が今でも数多くあるのです。

距離800m、徒歩約15分の成田山表参道には古くからの旅館や料理店が連なり、数多くの飲食店がうなぎ料理をメニューに入れています。これだけの密度でうなぎ屋さんが集まっている例は全国でも珍しいと言えます。

この機会に是非、成田の食や文化に触れることができる、うなぎのぼりの街 成田にお越し下さい。

【お問合せ先】(一社)成田市観光協会

TEL 0476-22-2102



成田山みたま祭り 盆踊り大会

8/23(土)・24(日)

長い歴史のある成田山みたま祭り盆踊り大会は、市民全体の祭りとして、女人講をはじめ市内の多くの踊り手が参加します。浴衣を着た小さな子供達も踊りの輪に加わり、成田ゆかりの曲に合わせて踊ります。

見物の方も一緒に、夏の夜を楽しむことができます。

皆で踊るととても楽しいです。飛び入りでのご参加も大歓迎ですので是非お越し下さい。皆で楽しい夏の思い出づくりをしてみませんか？

【日付】8月23日(土)・24日(日) 18時30分～21時

※両日雨天の場合は25日(月)に順延。25日(月)雨天時は中止となります。

23日は、18時30分から戦没者慰霊と新盆精霊、先祖供養の法要が成田山の僧侶により執り行われ、そのあと盆踊りが開始されます。

【開催場所】成田山弘恵会田町駐車場(成田山新勝寺門前)

【お問合せ先】(一社)成田市観光協会 TEL 0476-22-2102



8月の主な行事予定

滑河観音 四万八千日 (しまん はっせんにち)

「四万八千日」は、観音様の深いご縁がいただける日です。この日にお参りすると、四万八千日お参りしたのと同じ御利益があると言われています。

新しい仏様と2年目の仏様の精霊棚にお供えする為のお札と鬼灯(ホオズキ)をお求めいただけます。
(お札は8月からお求めいただけます。)

【日 時】 8月9日(土)

【場 所】 滑河観音(龍正院) JR 滑河駅より徒歩15分

【お問合せ先】 滑河観音(龍正院) TEL 0476-96-0217



千葉県立房総のむら「むらの縁日・夕涼み」

「涼む」をテーマにし、夏にちなんだ製作体験、怪談ばなしなど、縁日の賑わいや夕涼みの雰囲気をお楽しみください。浴衣・甚平の方は入場無料です。16時30分以降の入館料は一般・高大生とともに100円となります。

【日 時】 8月2日(土)・3日(日) 12時～19時30分(開館時間に変更となります。ご注意ください)

【入 場 料】 一般300円、高・大学生150円、中学生以下と65歳以上は無料

【お問合せ先】 千葉県立房総のむら TEL 0476-95-3333

下総ふるさとふれあい納涼まつり

ふるさとふれあいづくりをテーマに、キャラクターショーをはじめ、ステージイベント、豪華景品の当たる大抽選会や盆踊り、模擬店など多彩なイベントで盛り上がります。

【日 時】 8月10日(日) 16時～20時30分 小雨決行(雨天の場合は下総公民館※内容一部変更あり)

【場 所】 下総運動公園 JR滑河駅より徒歩15分

【お問合せ先】 下総ふるさとふれあい納涼まつり実行委員会 TEL 070-4716-8852

成田山門前町を行く～その⑤

代々の市川團十郎の中でも、特に成田山と縁が深いのが七代目です。七代目は代々の團十郎と同様に成田山を篤く信仰し、舞台でも成田山不動明王の上演を度々行っていました。

また、江戸で芝居を行うだけでなく、江戸まで来られない人々の為に、文化2年、7年の2回にわたって、成田村で奉納芝居を行っています。平素世話になる成田村の人たちに、お礼の代わりに計画されたのでしょうか。成田村の人にとっては、江戸に行かねば見られない本場の芝居を、村に居ながらにして見られるのですから、この上ない嬉しさであったでしょう。

文化2年の成田村での講演を例にとるなら、團十郎以下、同行者は瀬川菊之丞・大谷馬十・松本染五郎・市川小団次ら都合40名の豪華な顔ぶれでした。一流の役者が揃っているだけあって、村内外はもとより、佐倉藩の役人も見回りと称して大勢押し寄せ、7月1日の上演では、人の重さで棧敷席が崩れたと記録に残されています。

表参道を歩くとゆかりの場所があります。天保の改革の奢侈禁令(しゃしきんれい)にふれて江戸を追放された七代目は、新勝寺の延命院に1年間滞在をしました。市川家の家紋である三升の紋を配した「延命院跡地」という石柱があり当時を偲ぶことができるでしょう。このご縁にあやかり、延命院のある仲町の坂には、三升の紋があしらわれた街灯が設置され、成田の街並みをあたたかに照らしています。

七代目が成田に滞在した際には、門前町の旦那衆がお世話をしました。ゆかりの家も多く、新勝寺の御供物で知られる「亀谷堂」では七代目直筆の大看板が残されています。



七代目は、成田山に千両という大金を奉納して三升の額堂を寄進しています。額堂の正面に「せつたい所 七代目團十郎」と記した自筆の看板を掲げ、参詣者に自ら茶菓子の接待をしたと言われています。

そして、追放令が解除され江戸に帰参することができると、お不動さまの御利益によるものと、報恩のため、自身の等身大の石像を奉納しました。現在の額堂にその像が安置されています。

←成田山額堂

(次回へ続きます。)

☆イベント等の関連情報については、FEEL 成田(<https://www.nrftk.jp>)をご覧ください。☆